



ポスターの部

小学校の部

最優秀賞



白浜小学校六年

伊橋 乙華

「福祉のまちづくり」作文・ポスター入選作品を
下記日程で展示します。ぜひご覧ください

場所 横芝光町図書館 1階ロビー

期間 令和4年12月3日(土)～12月14日(水)

社会福祉法人 横芝光町社会福祉協議会

〒289-1727 千葉県山武郡横芝光町宮川11902 TEL 0479-80-3611 FAX 0479-80-3651

E-mail info@yokoshibahikarishakyo.jp <http://www.yokoshibahikarishakyo.jp/>

福祉のまちづくり 作文・ポスター



最優秀作品と優秀作品紹介

「ふれあいと支えあいの精神に満ちた心豊かな福祉のまちづくり」を進めるため、福祉教育の一環として、町内小・中学生から作文・ポスターを募集したところ、72点の作品が寄せられ、小学校の部・中学校の部でそれぞれ入選作品が決定しました。

作文の部

小学校の部 優秀賞

「お年よりとわたし」



日吉小学校五年

加瀬 清

「おはよう、さあちゃん。」

わたしのおばあちゃんは、毎朝そう言っ、わたしといっしょに小学校へ登校します。つかれている時もしやな事があつた時も、おばあちゃんの元気な声を聞くと気分が少し明るくなる気がします。一年生の時は、大きな荷物を持ってもらつたり手をつないでもらつて、学校まで連れて行つてもらつた事もありました。今は登校はんのはん長として先頭で歩いていきます。後ろを見るとおばあちゃんは一年生の女の子の荷物を持ってあげたり手をつないであげたりしています。わたしのおばあちゃんだけど、登校中はみんなのおばあちゃんです。おばあちゃんは毎日スクールガードとして、小学生のわたしたちが安全に学校に登校できるように見守ってくれているのです。

わたしの通う日吉小学校では、スクールガード以外にも昔遊び体験、七夕馬づくり、田植え体験などで地域の方たちに直接色々な事を教えてもら

う機会がたくさんあります。特に昔遊び体験で地域のおじいちゃんおばあちゃんからコマ回しのやり方を教えてもらつて初めてコマ回しに挑戦したことはわたしのよい思い出です。どんな場面でもわたしたちに笑顔で色々教えてくれて地域の方々には本当に感謝しています。

地域のおじいちゃんおばあちゃんのためにしてあげられることはあるのか。

わたしは考えてみました。今まで笑顔で色々教えてくれたおじいちゃんおばあちゃんにしてあげてことを考えても思いつかなかつたので聞いてみました。

「なにか手伝おうか。」

と声をかけるとおばあちゃんは、

「スマホの使い方が分からないの。教えてくれる?」

と言い、わたしはびっくりしました。わたしにとってはかん単な事でもおばあちゃんにとってはむずかしいことなのです。人は年をとると体の機能が低下して今まで一人でできた事も出来なくなってしまうのです。私はまだまだお年寄りが困っている事は何か分かりません。でも、

「大丈夫?何か手伝おうか?」

と一声かけることはできます。これからは、自分だけではなく自分のまわりの人や出来事にも気を配り、わたしのおじいちゃんおばあちゃんにだけではなく、私たちのために色々してくれた地域のお年寄りにも、お返しができるように自分から勇氣を出して、一声かけていきたいと思います。

「私が高齢者と言われるまで」



白浜小学校五年

菊地 紗愛

私は今十歳です。国が定める高齢者と呼ばれる年齢は、六十五歳からです。あと約五十年で私は高齢者と呼ばれるようになります。正直、まったく想像ができません。でも私はこの夏休みに、高齢者について考える機会がありました。

お母さんがお手伝いに行っている、デイサービスに何度か遊びに行きました。そこで私は、しょうげきをつけました。今までお年よりと関わることのなかった私にとって、かつげつが悪く何を言っているのかわからない人や、耳が遠くて私の声が全然聞きとれない人、足が不自由になり、車イスや歩行器を使っている人……。私は初めて出会いました。一番おどろいたのは、急になぜ自分がここに来たのかわからないと言いだし、はやくお家に送っていつてくれないかとお母さんに頼んでいたお年寄りです。お母さんは特におどろくこともなく、やさしくお話をしていました。私なら、びっくりして何も言い返すことができないと思いました。

そこで私は考えました。自分がお年寄りにしてあげられることはなんだろう。お年寄りがしてほしいことはなんだろう。自分が約五十年後も同じ立場になつてしまった時に、もどめることは何かを想像もしてみました。

耳が聞こえづらい人には、大きな声でゆっくりと話してあげると聞きとりやすいようで、最初より会話が続くようになりました。お散歩に行った時は、お年寄りに歩くスピードを合わせてあげると時間は長くなるけど、いつもより楽しい散歩だったと笑っていました。他にも、食事を食べやすい大きさに切つてあげたり、お年寄りは体温調節がむずかしいからエアコンの温度を気にかけてあげたりするといいてとデイサービスのスタッフの人が話していました。

気にかけてみると、私にもお年寄りにできることがたくさんありそうでした。でも、お母さんが「お年寄りが一番してもらつてうれしいことは、一緒に楽しくおしゃべりをしたり、遊んだりすることなんだよ。」と言っていました。

それを聞いて私は、もし自分が年をとったときつまらない毎日やさみしい思いをせずに、楽しくすごしたいと思いました。私や妹たちとお話をするお年寄りは、みんな笑つて楽しそうにしています。ただ、私たちが遊んでいるすがたをみているだけでずつと笑っているお年寄りもいました。

それをみて気づきました。このような子どもとお年寄りが関わる機会がとっても少ないということ

と。一緒にすごすことが少しでもあればお年寄りの笑顔がふえるのではないかということ。私はこれから自分にできることでお年寄りを少しでも笑顔にしていきたいと思います。



「僕の弟が幸せに生きるために」

光中学校一年

古谷 龍聖

僕には六歳離れた弟がいます。弟は知的障害があり特別支援学校に通っています。生まれつき全身の筋肉が弱く、発達の遅れもありました。それが原因で目が悪かったり、耳が悪かったり、小さな障害をいくつも抱え、入退院を繰り返し何度も手術しています。七歳になった今でも病院に通っています。弟の障害は見た目には分かりにくく、言語的コミュニケーションが困難です。家族といるときは、好きなことはよく話し明くて活発で

すが、たぶんほかの人には弟が何を言っているのか聞き取りにくく、わかりづらいのではないかと思います。そのせいか、弟は外に出ると人との関わりに消極的になり笑顔をなくしてしまいます。本当は人が大好きで、好奇心いっぱいなのに話しかけられても目を合わせることもできず、固まってしまいます。きつと話すことに自信がなくて緊張してしまうのだと思います。

そんな弟の代わりに母はいつも「すみません、ごめんなさいね。」と人に謝っています。別に謝ることもないと思いますが、きつと母はせっかく話しかけてくれた人に不快な思いをさせたくないと思ってしまうのだと思います。弟は小さいときから普通の幼稚園と併用して、障害児施設で療育を受けていました。幼稚園は週に二回くらいしか行けず、あとは療育と病院ばかりで、母はいつも弟と一緒に。でもそれが僕の家では当たり前の日常で、母はどんな時もつらいとかネガティブなことは言いません。どちらかというと、とても前向きで弟が障害を持って生まれてきたことで、普通では感じられない気付きが日常にたくさんあって、それは幸せなことなのだと笑って言います。そして障害を抱える人のために色々な制度があり、そのおかげで助かっていると母が言っていました。

弟は療育手帳を持っています。知的障害があると認められた人に交付される手帳でさまざまな支援やサービスを受ける際に確認のためになるそうです。ほかにも手帳には種類があり、障害の

違いによって交付される手帳も違うそうです。

僕は弟が障害を持って生まれたことで、普段から障害について両親と話すことがよくあります。障害のある人がどんなことに困っているのか、どんな社会だったら安心して生活できるのか、話し合っています。その中で母が僕に、困っている人がいたら気が付いてあげてほしいと言います。弟のように見た目には分かりにくく、周りの人に気が付いてもらえない障害を持っている人もいるということをわかっていてほしいと。

千葉県では障害により支援や配慮を必要としていることが外見からはわからない方が周囲の人に支援を必要としていることを知らせるためのヘルプマークやヘルプカードを配付しています。そのカードには住所や緊急連絡先、配慮してほしいこと、手助けしてほしいことが記入されています。赤いストラップ型でハートと十字のマークが特徴です。僕の弟もヘルプマークをランドセルに付けています。

僕はまず自分ができることの一つに、ヘルプマークやヘルプカードのことを周りの人に知ってもらえるように話すことがあると思います。電車やバスの中、駅や商業施設で困っている人がいたら声をかけるなど、勇気をもって行動したいと思っています。また、大きな災害が起きた時には周囲の人にも声をかけて、障害のある人が安全に避難をしたり、避難場所での声かけができたらと思います。

ヘルプマークは、障害のある人が自分から困っ

ていることを伝えられないとき、または困っていることを自覚していない障害者のためにとても重要な大切な目印です。一人でも多くの健常者の方に、こういうものがあることを知ってもらいたいです。そして緊急のとき、災害のとき、道に迷ったとき、手助けをしてもらいたいです。もし、僕の弟が一人どこかで困っているとき、誰かが優しく接してくれたら、とても嬉しいです。ほんの少しの勇気と思いやりの行動が障害のある人だけではなく、その人の家族のために協力することにもなると思います。

両親は弟が将来自立して生きていけるようにと、いろいろなことを教えています。緊急時に電話をかける方法や文字入力することで人に伝える方法、最近では公共交通機関の利用の仕方を実践して教えています。手帳を提示してバスに乗り、自分専用のスイカを使い電車にも乗ります。弟はそれをとても楽しんで覚えています。

僕は弟のおかげで障害のことを知ることができました。そして、障害者を持つ家族の気持ちも少し理解できます。だからこれからも僕にできることを考えたいと思います。弟が笑顔で幸せに生きられるように、弟の人生をサポートできる大人になりたいと思います。



「心」のユニバーサルデザイン



光中学校三年

加瀬 晴菜

私の祖母は、あまり足がよくありません。

先日、横芝駅の近くを通った時に、ふと目につくものがありました。家に帰り、母に聞いてみると、駅にエレベーターを設置している工事だと知りました。祖母は、船橋に住んでおり電車を使って横芝光町に遊びに来ます。しかし、年とともに足も悪くなり、重い荷物を持って階段を上ることが難しくなり、遊びに来る回数が減ってしまいました。私は、祖母が大好きなのでとても寂しくなりました。そんな時に、母からエレベーター工事のことを教えてもらい、嬉しい気持ちになりました。いつ完成するのか気になり、調べてみると、昨年の九月から工事が行われて、今年の十二月に完成する予定だそうです。エレベーターが完成したら足が悪い人以外にも障害のある方や妊婦さん、赤ちゃんを連れた人などの全ての人が安全に駅を移動できるようになります。

私が通う学校にも、エレベーターがあり、階段

を上り下りすることが難しい生徒が利用しています。また、吹奏楽部が体育館で練習、演奏する時に重い楽器を運ぶ時にも使われます。トイレも、同様に誰もが安心して使える専用のトイレが設置されています。一般生徒が使うトイレにも、手すりがついていたり、トイレトペーパーホルダーの位置が少し低く取り付けられていたり、廊下とトイレの境目の段差がありません。また、三階まで続く階段には、手すりがついていて、昇降口にもスロープが設置されています。

このような誰もが利用しやすい環境を、ユニバーサルデザインと言います。ユニバーサルデザインには、

- ① 誰もが同じように、公平に利用できる
- ② 使うときの自由度が高い
- ③ 使い方が簡単である
- ④ 必要な情報がすぐにわかる
- ⑤ うっかりミスが危険につながらない
- ⑥ 負担が少なく、小さな力で楽に使える
- ⑦ 利用しやすい空間と大きさがある

という七つの原則があります。しかし、これだけでは充分ではありません。どれだけ環境が整っていても私たちがそれをきちんと活用しなければ意味がありません。例えば、歩道に点字ブロックが設置されていても、そこに自転車止めたり、看板などを置いたりすると目の不自由な人にとって歩行のさまたげになります。また、電車内に優先席があっても使い方が間違っていたら意味がありません。

ません。

私は、電車に乗った時に色々な光景を目にしました。優先席に座っていないくても、下を向いてスマートフォンをいじり高齢者の方や赤ちゃんを連れた人に気づかない人が多くいました。少し目線をあげれば、視野が広がり、多くのことが目に入ると思います。そんな時皆さんは、勇気を出して声をかけることができますか？

私が小学生の時に祖母と一緒に出かけ、電車が混んでいて座れずに立っていたら、一人の女性が席を立ちあがり祖母に席を譲ってくれたことがありました。私は、「どうせ替わってくれる人なんていないだろうな。」と、思っていたけれど替わってくれた人がいて、多くの人がいる中で勇気ある行動をした女性に内心驚きました。私が、もしその立場だったら替わってあげようと思っていなくても行動にうつすことをためらってしまつと思います。ですが、「困っている人の立場で考える」「手を差し伸べる」という思いがなければ暮らしやすい社会を作りあげることはできません。ユニバーサルデザインには、思いやりや助け合いの精神が必要です。施設や情報も大切ですが、私は「心のユニバーサルデザイン」の方がより大切だと思います。これから私は、高校生になり、電車で通学する機会が増えると思います。その時に困っている人がいたら、ためらわずに勇気を出して声をかけようと思います。自分のその一言で思いやりのあふれる社会になっていけたら嬉しいです。



小学校の部 優秀賞

上堺小学校一年
つちや ゆずき
土屋 柚稀



小学校の部 優秀賞



白浜小学校五年
おがわ ゆうご
小川 侑悟



小学校の部 優秀賞

白浜小学校六年
いしはし わかな
石橋 和奏



中学校の部 優秀賞

光中学校二年
いはし あやの
伊橋 彩乃



小学校の部 優秀賞

白浜小学校三年
すずき ゆうた
鈴木 裕太



小学校の部 優秀賞

白浜小学校六年
きたがわ あやか
北川 あやか



ポスターの部

最優秀賞、優秀賞の作品を下記日程で展示します。
皆さん、ぜひご覧ください。

期間：12月3日(土)～12月14日(水)
場所：横芝光町立図書館 1階ロビー

■■■■ 園児と一緒に ■■■■ 落花生・さつま芋収穫体験

～日吉地区・白浜地区社協～

10月4日世代間交流の一環として、日吉地区社協と日吉保育園児が落花生の収穫体験、白浜地区社協と白浜保育園児がさつま芋収穫体験をそれぞれ行いました。園児たちは、収穫した落花生の多さとさつま芋の大きさにビックリ！！していました。



落花生の収穫

■■■■ 交流会で ■■■■ ボッチャ体験しました

～上堺地区社協～

10月27日上堺地区社協では地域の方々の交流を深めることを目的として、交流会を開催しました。今回は誰でも楽しめるボッチャ体験を行い27名が参加しました。初めて体験する方も多く、始めは戸惑っていましたが、「面白かった」「またやりたいね」との声があちらこちらから聞こえ、地域の方々の良い交流ができたと思います。



■ 車いす体験・視覚障がい者白杖体験・高齢者疑似体験 ■

～横芝小・上堺小・日吉小～

6月3日上堺小学校4年生、10月26日横芝小学校3年生、10月21日日吉小学校4年生を対象に社会福祉協議会職員がボランティアの協力を得て、視覚障がい者白杖体験・高齢者疑似体験・車いす操作を指導しました。

白杖体験では、目の見えない状況での歩行体験やガイド者の歩行介助の仕方・適切な誘導等について学び、高齢者疑似体験では、疑似体験セットを体に装着し、腰の曲がった状態や視野の狭さなど高齢者の身体機能の低下を体験しました。

また、車いす体験では、スロープや段差を乗り越えるコツなど車いすの扱い方を学びました。

この学習を通じて、身体機能の低下した方や障がいのある方の気持ちを理解し、優しい気持ちで人に接してくれたらと思います。



*賛助会員（法人・事業所）

（敬称略・順不同）

(有) 斉藤自動車整備工場	南条自動車(有)	(弁) 九十九里	(有) ユート・アメニティ
(有) グリーンファーム九十九里	平和堂薬局光店	(有) 市原石油	畔蒜総業(株)
(株) 畔蒜工務店	(有) バーネットビレッジ	(有) 川島建設	(有) 丸屋コーポレーション
(有) 光住販	(株) 三光自動車工業	(株) 青柳建設	(株) ウザワ商店
(株) 越川ストレート	炭火焼肉 樹苑	青雲閣	おばこや
(有) 大新工業	萩原畳店	(株) なんじゃもんじゃ	(株) 海成
(株) カイホ	(有) 早川陶器店	(有) ひかり薬局	ハリカ横芝光
青柳酒造(株)	(有) サンアート	銚子商工信用組合横芝支店	(有) 秋山架設
旭家具店	(株) トーカン工業	(株) 林建材	(有) 小川総業
(株) 彦兵衛建設工業	平山損保事務所	日産プリンス千葉販売(株) 横芝支店	(株) 大手
(株) 横芝緑化	(有) 杉森興業	ゼンミ食品(株)	(有) 平山工務店
淡路工業(株)	(有) ハヤカワ商行	(有) ホクショー千葉	研友会 西村歯科医院
(株) 椎名畜産	総武建設(株)	(株) 太智建設	環境産業(株)
(有) 古川コンクリート工業所	丸源起業(株)	(株) 村田屋本店	(株) 放電精密加工研究所
馬狩建設(株)	(有) さいとう電気	鈴木木材工業(株)	山崎電気工業
(有) とん亭九十九	(有) 越川鋼業物産	(株) 中村薬局	

*特別会員（福祉施設）

（敬称略・順不同）

吉祥苑(特養)	横芝光(特養)	第二松丘園(特養)	光楽園(養護)
心結会 まんまる	日吉保育園	光町保育園	光町中央保育園
白浜保育園	フタバ保育園		



あなたも地域福祉の担い手に



社会福祉協議会費は引き続き募集をしています。ご協力をお願いいたします。

ご協力ありがとうございました

9月20日～10月30日まで行ったフードドライブ(食品の回収)に多くの方のご協力をいただきました。いただいた食品は実施主体であるフードバンク千葉に届けるとともに、町民の皆様のために活用させていただきます。



ご寄付ありがとうございました

6月15日 舟の会様

10月7日 山武郡市手をつなぐ親の会様



山武郡市手をつなぐ親の会様